〜
省略
〜

２．共通の判断軸

行財政改革に関するすべての取組について、下記４点の判断軸から総合的に判断します。

なぜやるか

① 次世代に課題を先送りにしない

将来世代に過度な負担を残さない持続的な財政構造への転換を図り、「今ならまだ間に合う」という認識のもと時機を逃さない意思決定と実行を重視した改革を進めます。過去の前例に固執せず、町の未来にとって最善な選択を選び、変化に柔軟に対応できる「しなやかさ」を意思決定の姿勢として大切にします。

どう決めるか

② 選択と投資

すべての事業を点検し、限られた経営資源を優先度の高い施策に~~経営資源を~~重点配分する「選択」を行ないます。また、町の将来にとって有益な施策については、収入増や地域価値の向上につながる「投資」として積極的に取り組みます。

どう進めるか

③ 住民との対話から創る行財政改革

町の財政状況や事業内容を住民にわかりやすく伝え、審議会や住民懇談会等での対話を通じて、町にとって本当に必要な「選択」と「投資」を住民と共に決定し実行していきます。その中で、住民にとって真に必要な行政サービスを見極め、効果とコストを重視した行財政運営を進めます。

④ 共創の推進

課や組織の枠を超えた行政内部の連携はもとより、議会・住民・地域・民間事業者・近隣自治体がそれぞれの役割を果たし、全体の公益性に対し相乗効果を生む「共創」によって行財政改革を進めます。

３．重点取組事項

〜
省略
〜